

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

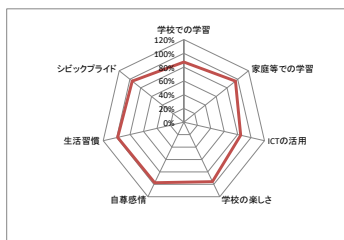
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの問題形式においても無回答率は全体的に低い傾向にあり、問題に真摯に取り組もうとしていることがうかがえる。また、全体的に全国平均正答率はやや下回っているが、全国平均とはほぼ同じ傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える問題。	
	努力が必要な問題	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に無回答率は低く、意欲的に取り組もうとしていることがうかがえる。また、学習指導要領の領域におけるデータ活用との区分が全国平均正答率に比べ、大きく下回っている傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈する問題。	
	努力が必要な問題	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思うか」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。
- ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しているか」との問いに対しての肯定的な回答が特に低いため、学校での学習における改善策を検討していく必要がある。
- ・「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の問いにおける週1回以上の回答が80%以下となっており、より効果的な活用方法の検討と授業改善を進めていく必要がある。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- ・授業における、表現する活動を充実させ、主体的に取り組むことができる手だてを工夫した授業改善を行う。
- ・ICT機器の効果的な活用方法を検討するための、校内研修を充実させる。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・1日1ページの学習課題や週末課題等への取り組みをさらに充実させ、より効果的な活用方法を検討していく。
- ・効果的にICT機器を活用した学習課題に取り組み、主体的な学びができるよう工夫していく。